

## 四国健康ナビ



徳島大学病院 感覚・皮膚・運動機能科 皮膚科

仁木真理子助教



### 注射薬で治療 アトピー性皮膚炎

かなか良くならない方もいる  
のが現実です。

2018年に日本でデュピルマブ(商品名デュピクセント)という新しいアトピー性皮膚炎治療薬が使用できるようになります。デュピルマブはアトピー性皮膚炎のかゆみや、皮膚バリア障害の原因

善できるようになりました。  
投与方法は、2週間に1回、

腹部などへ皮下注射を行います。自己注射といって、自宅で注射することも可能ですので、症状が安定すれば3ヶ月

になります。アトピー性皮膚炎は、発症機序などの病態の説明が進み、注射薬デュピルマブ以外にも、新しい外用・内服薬(JAK阻害薬)も使えるようになります。アトピー性皮膚炎ですと悩んでいた方は、お近くの皮膚科に足を運んでみてください。

皆さんはアトピー性皮膚炎の治療と聞いて、何を思い浮かべますか。アトピー性皮膚炎とは、湿疹が出たり引いたりする病気です。子どもの病気と思われがちですが、世代において見られます。

アトピー性皮膚炎の方は、

アトピー素因といつて、なりやすい体質と、皮膚バリア機能の低下があるため、外部からのさまざまな刺激(アレルゲン)に対して、皮膚炎やかゆみを起こしやすくなっています。

今までの治療は皮膚を守ること(スキンケア)や皮膚炎を早期に鎮める治療、すなわ

ち保湿薬やステロイド薬の外用、抗ヒスタミン薬の内服が主軸でした。これらの治療で皮膚を良い状態に保つことは十分可能です。しかし、毎日全身に薬を塗るのが負担になつたり、学校や仕事で皮膚科への通院が難しかったりするほか、体調や季節によって皮膚の状態が悪くなるなど、な

ど、15歳未満の子どもはまだ十分な効果が得られないという薬です。これによって、今までの治療では効果が不十分だった、中等度から重症のアトピー性皮膚炎の方でも、かゆみや湿疹を自覚ましく改

とされるインターロイキン(I-L)-4、I-L-13という炎症性サイトカイン(免疫細胞から分泌される物質)の働きを阻害する分子標的薬と、これが挙げられます。治療費に関しては、自治体や国の医療費助成制度で一部負担してくれる場合もあります。